

事務局説明

令和3年12月24日（金） 教育委員会

事務局説明

1 第5回会議の持ち方 (P3～P6)

2 本市のGIGAスクールの取組みについて (P7～P35)

3 教育DX ～これまでの教育・これからの教育～ (P36～P57)

1. 第5回会議の持ち方

1-1. GIGAスクール実現への歩み

- 本市における**GIGAスクール**の実現を確かなものとするため、更なる取組みを目指す**新たなフェーズ**へ

(国) GIGAスクール構想

全ての子どもたちが公正に個別最適化され、その資質・能力を一層伸ばすことができる教育ICT環境の実現

本市の取組み状況

《STEP1》

環境整備

- ・ 1人1台端末及び高速大容量通信ネットワークの一体的整備
- ・ コミュニケーションツール・学習支援ソフト・各種アプリの充実
- ・ 積極的な活用に向けた運用基準、保証・安全管理体制を構築



《STEP2》

活用推進

- ・ 活用スキル向上のための教職員研修の充実
- ・ 授業や校務における積極的な活用・実践の展開
- ・ 各学校での好事例創出、学校間でのノウハウ共有



更なる高みを目指し

今後の描く姿として

- ・ 「デジタル・シティズンシップ教育」と「教育DX」に取り組み、岐阜市版GIGAスクールを更に推進
- ・ 推進のためのロードマップとして、(仮称)岐阜市GIGAスクール推進計画を策定

1-2. GIGAスクール推進計画を支える理念

- 「デジタル・シティズンシップ教育」と「教育DX」の理念を体現し、計画の推進力とする



「デジタル・シティズンシップ教育」と「教育DX」の2つが、
GIGAスクール推進計画を支える理念、前提姿勢となる

▶ 子どもたち一人ひとりずつの可能性を最大限伸ばす、
真に個別最適な学びの実現へ

デジタル・シティズンシップ教育

デジタル社会を生きる市民の資質・能力となる
「活用・自律・行動規範」の知識・技能を育む



岐阜市教育委員会 × 岐阜聖徳学園大学
デジタル・シティズンシップ教育推進に係る連携協定

【連携・協力内容】

- ・デジタル・シティズンシップ教育の推進にかかる全体構想
- ・教職員、児童生徒、教職志望学生の情報活用能力の育成

(R3.7.29 締結)

教育DX

デジタル技術を活用し、カリキュラムや学習のあり方とともに、
教職員の業務、組織、プロセス、学校文化をも革新し、時代に対応した教育を確立する

紙をデータ化するなど、単にそのやり方を
アナログからデジタルに置き換えるだけに留まらない

あり方やタスクそのものを、抜本的に変容させていく
⇒ その描く姿に向けて、デジタルをいかに使うか の発想へ

1-3. 本日の協議の流れ

- 招聘者及び事務局からの説明を踏まえ、以下の事項について、ご協議いただきたい

協議の流れ	
(1) 招聘者説明	芳賀様 ● デジタル・シティズンシップ教育の推進 及び 教育DX が導く、 これからの学びや学校の未来像について ● 子どもたちのデジタル・シティズンシップを育む、具体的な取組みについて
(2) 事務局説明	事務局 ● (仮称) 岐阜市GIGAスクール推進計画について ● 今年度の教育DXの取組状況について
	松岡校長 ● 教育DXによる学びの個別最適化に向けて（学校長としてのビジョン）
(3) 意見交換	協議において、ご意見・ご提案いただきたいこと ・ 岐阜市GIGAスクール推進計画(案) の構成・内容 について ・ デジタル・シティズンシップ教育と教育DX を更に進めるため、必要と考える 取組み について

2. 本市のGIGAスクールの取組みについて

本市のGIGAスクールの取組みについて

令和3年12月24日
岐阜市教育委員会事務局

1 （仮称）岐阜市GIGAスクール推進計画案

2 教育D Xの取組み

1 （仮称）岐阜市GIGAスクール推進計画案

- 1 背景
- 2 本計画の基本方針
- 3 本計画の位置付け
- 4 推進体制
- 5 実施施策とスケジュール案
- 6 評価・見直し

GIGAスクール構想とは

- ・ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、**多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる**教育ICT環境を実現する
- ・ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、**教師・児童生徒の力を最大限に引き出す**

文科省「GIGAスクール構想の実現へ」2020.6.25

GIGAスクール構想で目指す姿

子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、**社会の形成に参画するための資質・能力の一層確実な育成**

子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて
～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～
《文部科学大臣メッセージ》2019.12.19

GIGAスクール構想の推進手段（STEP2）

これまでの教育実践の蓄積 × ICT = **学習活動の一層充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**

文科省「GIGAスクール構想の実現へ」2020.6.25

GIGAスクール構想の推進手段（STEP1）

児童生徒向けの1人1台端末と
高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備

1人1台端末の積極的な利活用等を進める際の『留意事項』（ポイント）

端末の整備・活用	デジタル教科書・教材・CBTシステムの活用等	ICTの活用に当たっての児童生徒の健康への配慮等
個人情報保護とクラウド活用	教員のICT活用指導力の向上	保護者や地域等に対する理解促進
ICTの積極的な利活用	情報モラル教育等の充実	ICTの円滑な活用に向けた改善の継続

文科省「GIGAスクール構想の最新の状況について」2021.3.19

1 背景 ② 本市の現状と引続きの課題

昨年度までの取組み

文科省「GIGAスクール構想」

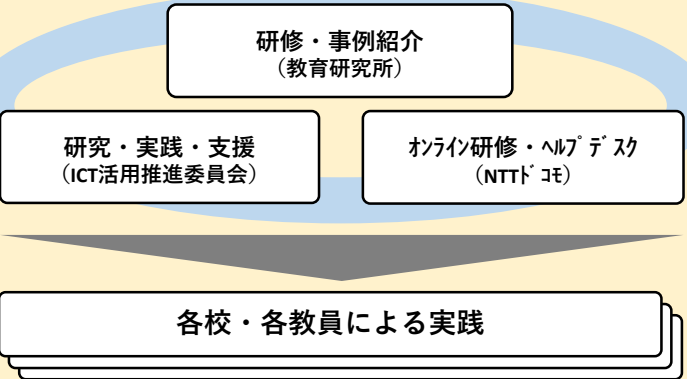
《STEP I》環境整備

機器	全ての児童生徒にタブレット端末配布
通信	LTEでいつでもどこでも繋がる高速通信
コンテンツ	コミュニケーションツール、学習支援ソフト、各種アプリ
運用	持ち帰りを前提としたルールの整備
安心/安全	破損・紛失時の保証、セキュリティの確保

同時双方向型
コミュニケーション手段
の整備

繋がり
の確保

《STEP II》活用推進



デジタルを
活用した
学びの充実

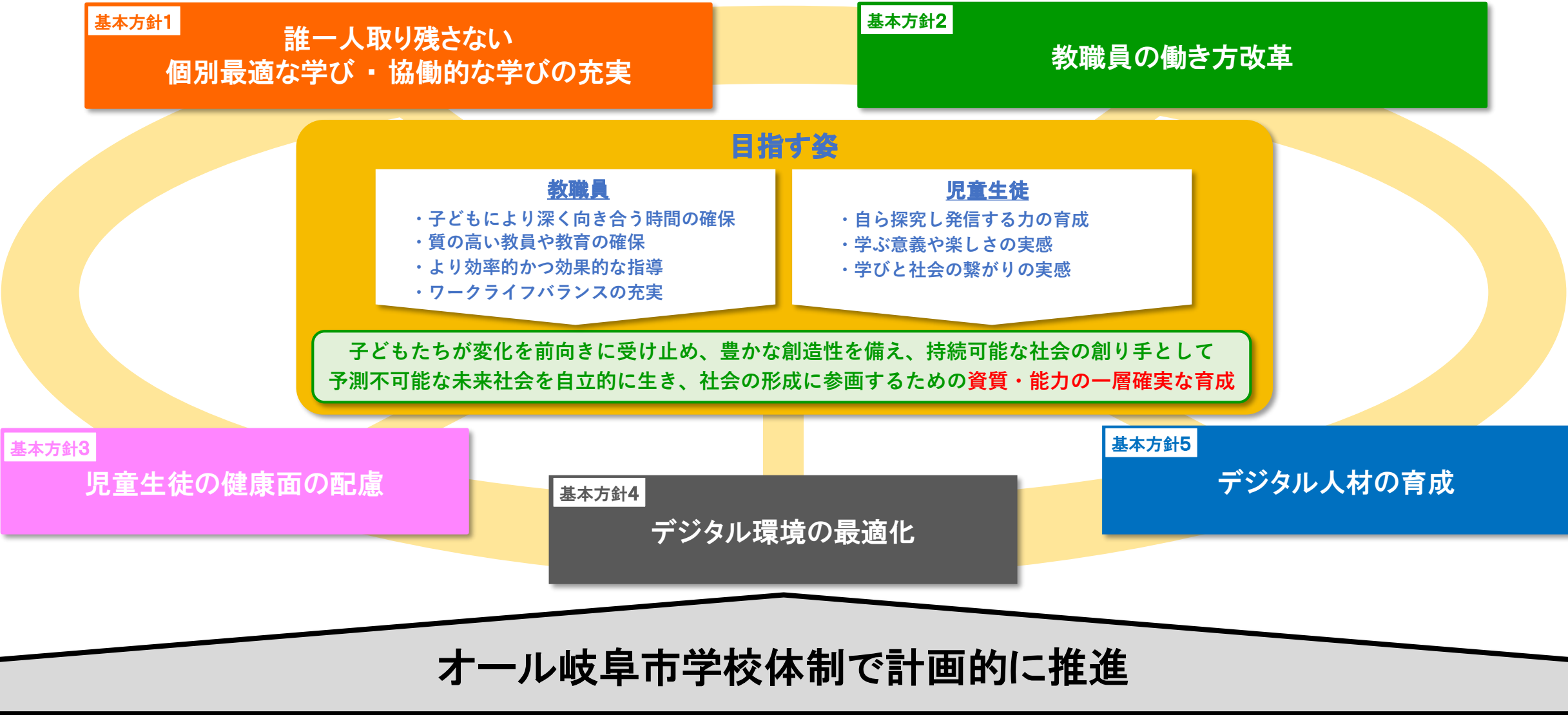
デジタルを
活用した
働き方改革

一定の成果

引続きの課題

- ① 誰一人取り残さない、個別最適な学び・協働的な学びの充実
⇒ デジタルを有効活用した、誰一人取り残さない、個別最適な学び、協働的な学びの充実
- ② 1人1台タブレット端末の“日常的”な“文具として”の活用
⇒ 全ての学校・学級・教科で、全ての教職員・児童生徒が1人1台タブレットを“日常的に”“文具として”有効に活用する状態
- ③ 児童生徒の健康への配慮
⇒ デジタル活用推進に伴う健康面への配慮
⇒ 心身のケアに資するデジタルの有効活用
- ④ 教員の働き方改革
⇒ 負担増大・長時間労働の改善
⇒ 教員のなり手不足解消
- ⑤ 保護者のGIGAスクール構想への理解
⇒ 「必要性」の実感
⇒ 子どものインターネット依存や健康への不安
⇒ 家庭における「情報モラル」意識の醸成
- ⑥ 学校をとりまくデジタル環境の充実
⇒ 1人1台タブレット端末導入・デジタル教科書や各種教材のクラウド化等の環境変化に伴う学校のデジタル環境のGIGAスクールに資する姿への変革
⇒ 校務事務における利便性向上とセキュリティ担保の両立
- ⑦ デジタル人材の育成
⇒ 教員・児童生徒（保護者）の情報モラルを含めた情報活用スキル（情報モラル含む）の向上
⇒ GIGAスクールを牽引する専門体制・専門人材の継続的な確保・育成
- ⑧ 組織として継続的にGIGAスクールを推進する枠組みの整備
⇒ GIGAスクールの取組みが各校長それぞれの方針、一部の教職員任せになっている部分がある
⇒ 学び・働き方・デジタル環境・人材育成など全方位的に企画、実行、評価・改善を全市的に計画的に推進する枠組みの整備・継続運用

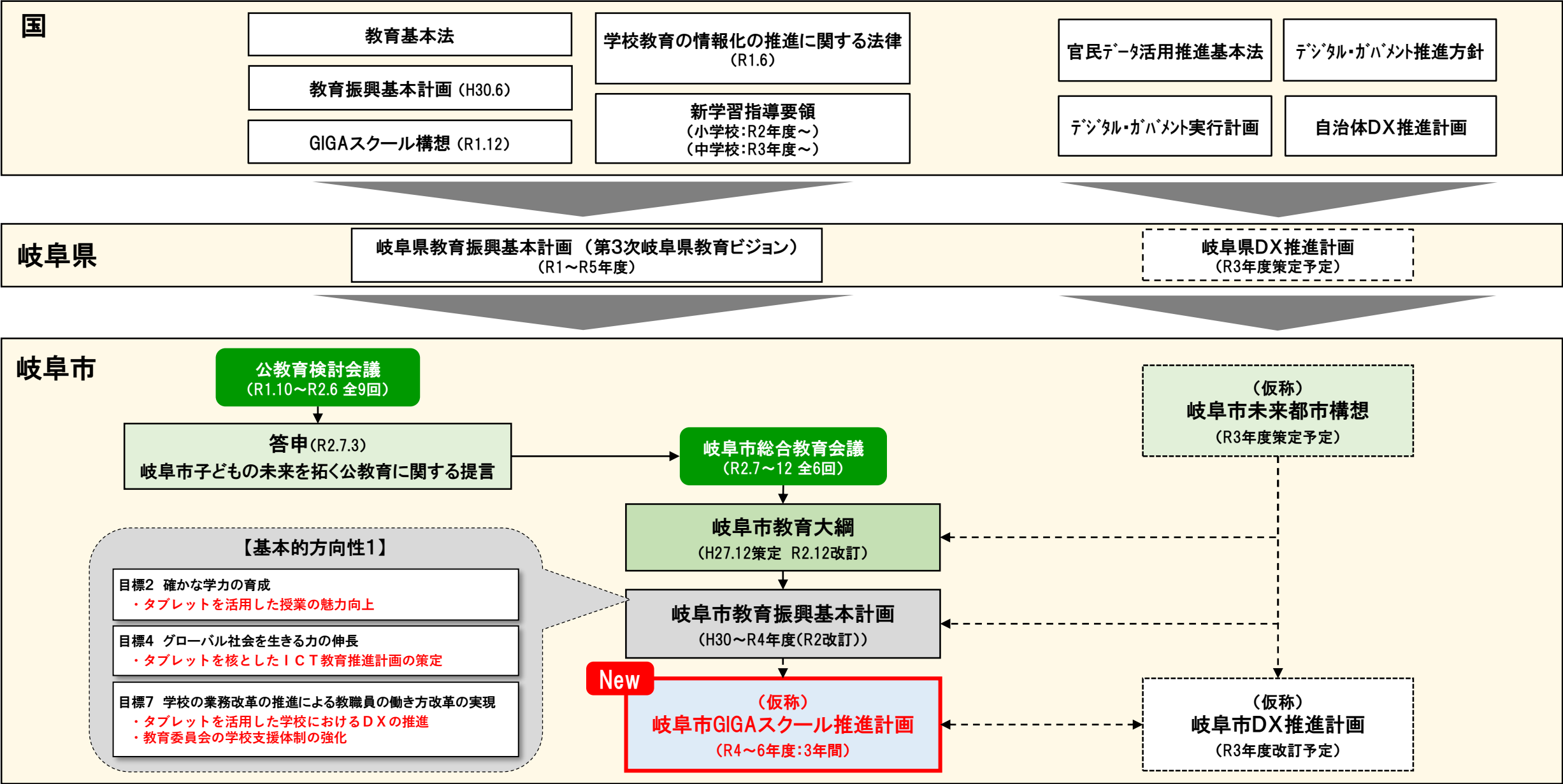
「デジタル・シティズンシップ教育」と「教育DX」の概念に基づく
岐阜市版GIGAスクール の更なる推進



3 本計画の位置付け

《学校教育関係》

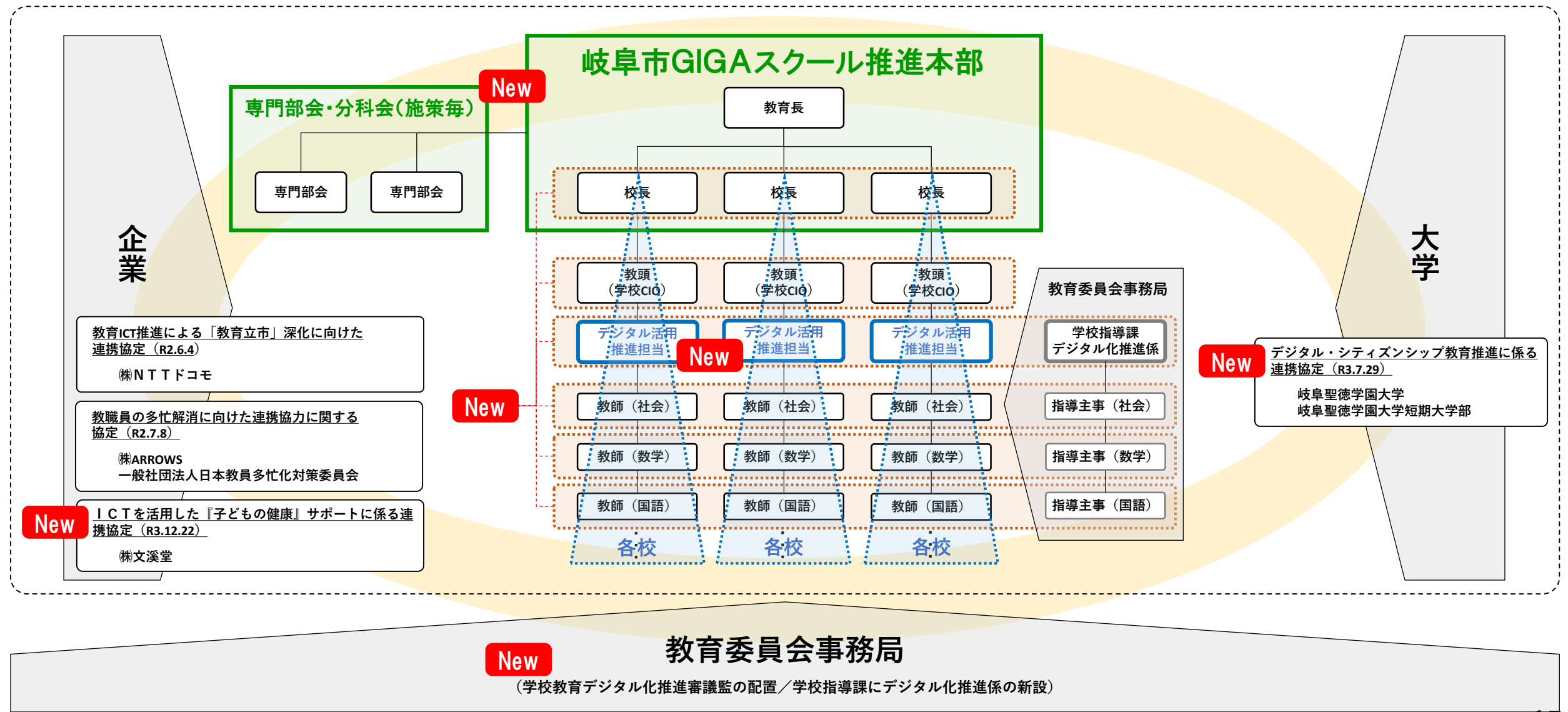
《市長部局関係》



4 推進体制

GIGAスクールの推進を支える4つの体制

オール岐阜市学校の推進体制 + 各校における推進体制 + 学校横断の連携体制 + 産・官・学による学校支援体制



5 実施施策とスケジュール案

準備期間（研究・検討・実証・調達）

学校への展開（予定）

基本方針		推進施策案	推進スケジュール案			
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
基本方針1	誰一人取り残さない 個別最適な学び・協働的な学びの充実	① 日常的なデジタル活用による個別最適な学び・協働的な学びの実践	継続実施 施策検討	研究実証	更なる充実	
		② 基礎的・基本的な学習内容の定着	施策検討 モデル校実証	研究実証	更なる充実	
		③ 企業や学術機関・地域と連携した学校と社会を繋ぐ学び	施策検討	全校展開		
基本方針2	教職員の働き方改革	④ 会議・研修・情報伝達・共有における事務の効率化	継続実施	更なる充実		
		⑤ 学校と保護者・地域間の連絡の効率化と利便性向上	施策検討 モデル校実証	全校展開		
		⑥ 教職員勤怠管理の更なる適正化	施策検討 モデル校実証	全校展開		
基本方針3	児童生徒の健康面の配慮	⑦ ICTを活用した『子どもの健康』サポート	施策検討	開発・実証	全校展開	
		⑧ 学校健康診断情報のPHRへの活用	国の工程表に沿って推進			
基本方針4	デジタル環境の最適化	⑨ 多様な学びの姿に柔軟に対応できる未来の教室づくり	施策検討 モデル校実証	研究実証	順次整備	
		⑩ 効率的かつ堅牢な校務系デジタル環境の最適化	令和7年度の刷新に向け企画・設計・調達			
基本方針5	デジタル人材の育成	⑪ 児童生徒・教職員の情報モラルを含む情報活用スキル向上	継続実施 施策検討	デジタル・シティズンシップ教育の実践		
		⑫ 持続可能なデジタル専門組織の整備とデジタル専門人材の確保・育成	継続実施 施策検討	計画的な実施		

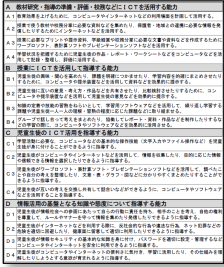
（※）推進施策案、スケジュール案は現時点で想定する予定

6 評価・見直し

【評価方針】 目指すは資質・能力の育成 ⇒ 情報活用能力を評価指標とする

教員

文科省「教員のICT活用指導力チェックリスト」



- ・自身の校務にICTを活用する能力
- ・授業でICTを活用して指導する能力
- ・児童生徒のICT活用を指導する能力
- ・ICT活用の基盤となる情報モラル等について指導する能力

児童生徒

児童生徒の発達の段階を踏まえたスキルアップ表
(文科省「情報活用能力の体系表」をベースに岐阜市教委で作成)



- ・活用スキル
- ・探究スキル
- ・情報モラル

外部サービスの活用

クラウド版
情報活用検定

児童生徒

- ◆コンピュータ上の試験（CBT）への習熟

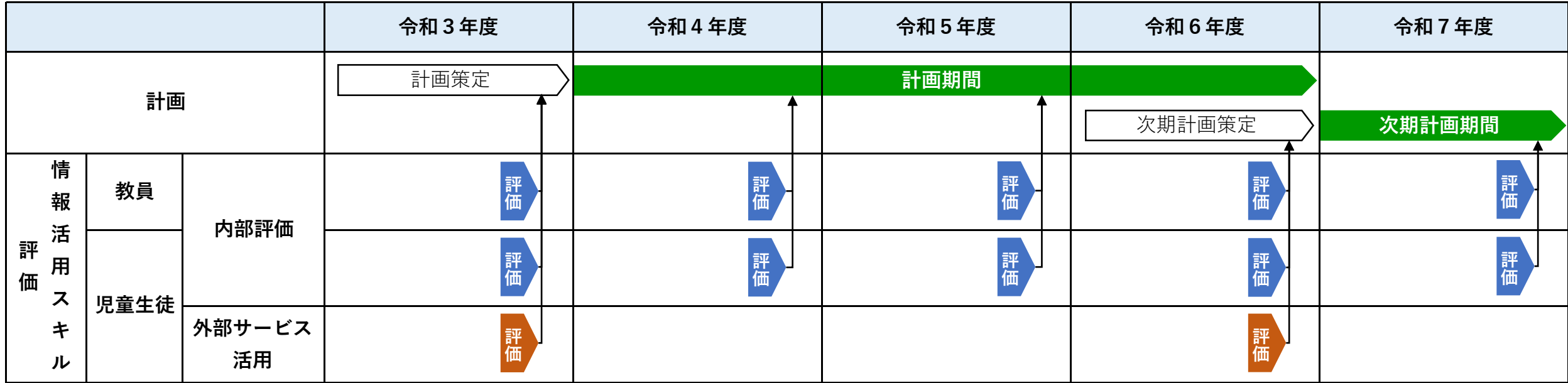
市教委
学校

- ◆全国との比較による客観的評価・分析
⇒ 相対的に自分たちの位置を把握
- ◆児童生徒一人ひとりの詳細成績の見える化
⇒ 個々の強みやほめるポイントの把握
子どもたちへの声掛けや次の指導を考える資料として活用

目標設定の上、毎年、評価・分析・改善を実施

計画期間の評価として活用

【評価実施サイクルイメージ】

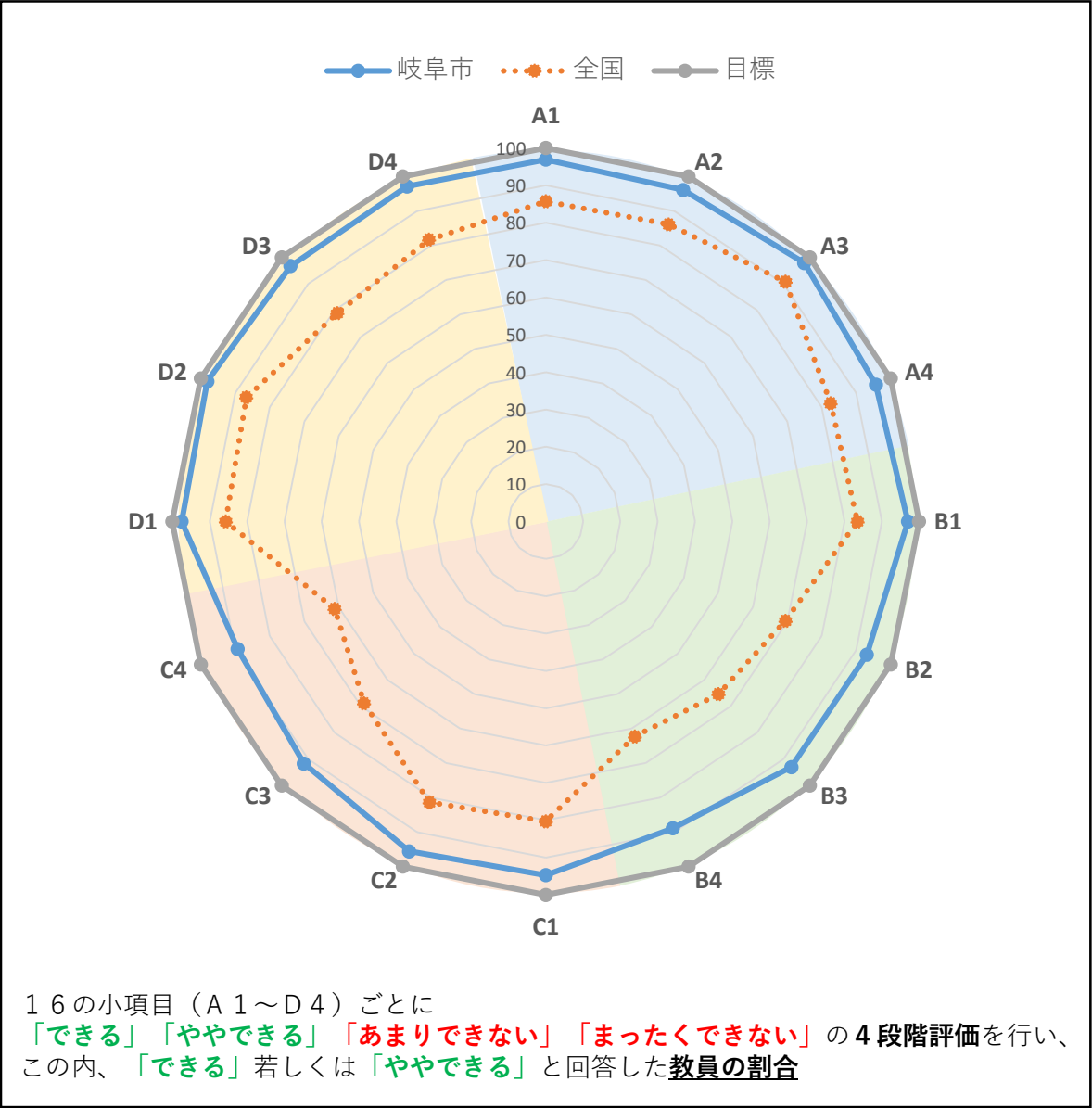


【参考】文科省が公開する全国平均との比較

文科省「教員のICT活用指導力チェックリスト」

A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	
A 1	教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。
A 2	授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。
A 3	授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するためにワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。
A 4	学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。
B 授業にICTを活用して指導する能力	
B 1	児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B 2	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。
B 3	知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。
B 4	グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。
C 児童生徒のICT活用を指導する能力	
C 1	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。
C 2	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。
C 3	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。
C 4	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。
D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	
D 1	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。
D 2	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。
D 3	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなどコンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。
D 4	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。

文科省「令和2年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」（2021.10）



2 教育DXの取組み

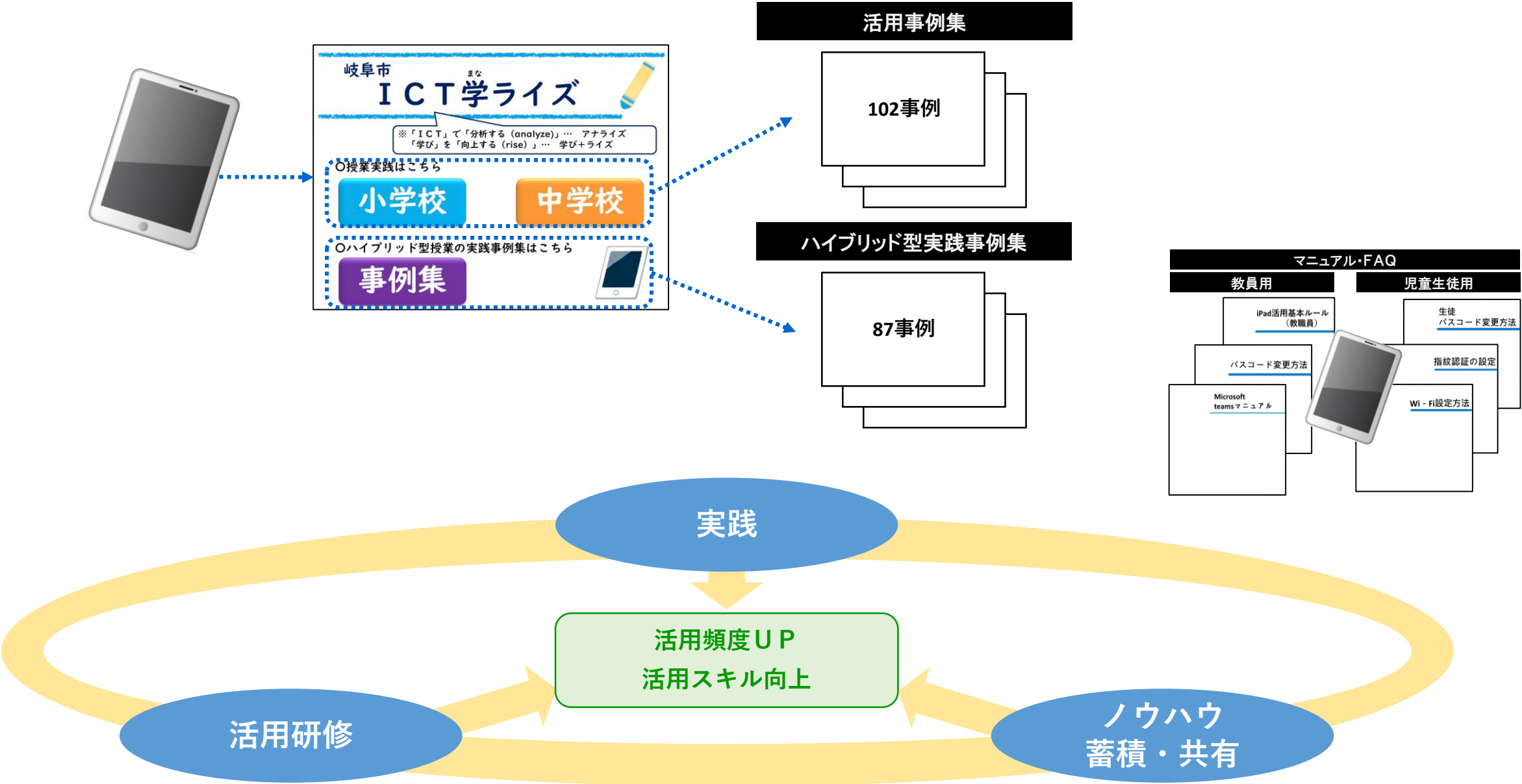
1) 取組み事例

- ① 学びの充実
- ② 非常時における学びの確保
- ③ 基礎的・基本的な学習内容の定着
- ④ 働き方改革
- ⑤ ICTを活用した『子どもの健康』サポート

2) デジタルを活用したこれからの学校のように

1) 取組み事例

① 学びの充実（実践ノウハウの蓄積と共有）



1) 取組み事例 ① 学びの充実 (活用事例 (活用事例集より))

個別最適な学び

中学校全学年「5教科・夏休みの課題」

梅林中学校 令和3年7月

使用ツール

eライブラリ

活用シーン

- 夏休み中の生徒の学習の進捗状況を確認できるようにするため、全校一斉でオリエンテーションを行い、各教科の時間で課題についての説明を行った。
- 子どもの姿・授業の様子、成果等
- 夏休みが始まる前に13時間程度eライブラリを進める生徒を紹介したり、進捗状況のグラフを見せるなどした。
- 夏休み中にFormsも活用しながら、課題の進捗状況に対するアンケートを取り、意識を高めていく予定。



小学校6年「算数・データの活用」

加納小学校 令和3年6月

使用ツール

SKYMENU Cloud

活用シーン

- ポジショニング機能を使い、各々の考えが可視化できるようにすると共に、考えの変容を振り返ることができるようにした。(個人追究後半に第1回目のポジショニング。全体交流の後、本時を振り返る時間に2回目のポジショニング。それぞれの理由については、ノートの記述。)
- 子どもの姿・授業の様子、成果等
- 子ども同士で意見交流をして、考えを確かにしたり、見直したり、広げたりすることにつながった。教師は、ポジションを見ながら意図的に指名したり、考えが変容した子にその理由を聞いたりするなどして、本時の学びを深めるための指導・援助につなげることができた。



協働的な学び

中学校2年「社会・近世の日本」

岐阜西中学校 令和3年7月

使用ツール

コラボレーションスペース

活用シーン

- 小集団学習
- 各自で追究した内容をコラボレーションスペースにスクリーンショットして貼り付けてから交流する。
- 子どもの姿・授業の様子、成果等
- 各自が書いたまとめを共有しやすい。
- 発言するときに、自分の席からノートを全員に示しながら話すことが可能になった。



小学校4年「社会・水はどこから」

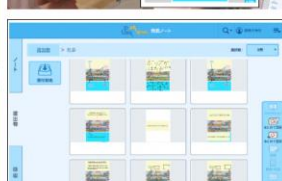
日野小学校 令和3年6月

使用ツール

SKYMENU Cloud

活用シーン

- 岐阜市と他地域との水道のしくみの違いについて資料からの読み取りを全員ができるようにした。
- 水道設備や取水方法の違いを明確にできる比較資料を準備し、岐阜市と他地域との資料の下に直接書き込みができるようにした。
- 学級全体でグループワークで行い、読み取り方が分からない、読み取れるかどうか表現して良いかわからない児童も他の児童と協働して学習を進められるようにした。
- 子どもの姿・授業の様子、成果等
- 手元の視覚資料を活用しグループワークで学習を進めたことで全体交流前に自分と仲間の考えを比較しながら資料の読み取りをすることができた。
- 全体交流で積極的に発言する児童が増え、考えを広めたり、深めたりする学習ができるようになってきた。



探究学習

中学校3年「社会・世界恐慌と日本の中国侵略」

藍川北中学校 令和3年5月

使用ツール

OneNote

活用シーン

- 一単位時間の追究資料をOneNoteのコンテンツライブラリに貼り付け、生徒が自身のクラスノートに保存し、追究内容を書き込めるようにした。
- 資料によっては、それぞれが書き込んだことを、小集団で共有できるように「共同作業スペース」を活用した。
- 子どもの姿・授業の様子、成果等
- 課題に対して、資料のどの点に注目していいかわかり、画面上で共有できるようになった。(共同作業スペース使用時)
- ※教師にとっては、生徒の資料を読み取る観点で記録として残り、評価や今後の資料づくりの参考になった。
- 授業後に板書を貼り付けておくことで、欠席した場合も学習内容が把握できるようになった。



小学校高学年「夏休みの作品・製作記録」

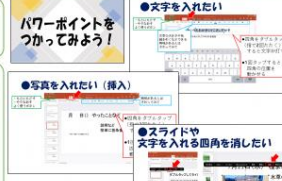
鷺山小学校 令和3年9月

使用ツール

PowerPoint

活用シーン

- 夏休みの自由研究や製作の記録を、PowerPointを使ってまとめる。
- ・事前に文字や写真の入れ方など、基本的な使い方や手順を示したプリントを配布し、説明をした。
- ・作品発表会では、大型テレビに映して発表した。
- 子どもの姿・授業の様子、成果等
- どの児童も興味をもっていた。今後授業等で調べたことをまとめる際に活用できる。夏休みには、5年生12人の児童がパワーポイントを使用したまとめ方に挑戦することができた。
- 発表では、製作の過程を写真等で示すことができ、分かりやすかった。



外部との繋がり

中学校全学年「生徒会・中学校区オンライン会議」

陽南中学校 令和3年7月

使用ツール

Teams

活用シーン

- いじめ防止に向けた中学校区内の取組を小学校児童会と中学校生徒会とで交流し合う活動を行った。
- 子どもの姿・授業の様子、成果等
- 移動の時間が短縮され、効率的に会議を行うことができた。
- オンライン交流会を今後も定期的に行うことで、資料の共有機能や司会の仕方などを指導していきたい。



小学校5年「社会・わたしたちの生活と環境」

長良西小学校 令和3年10月

使用ツール

Zoom

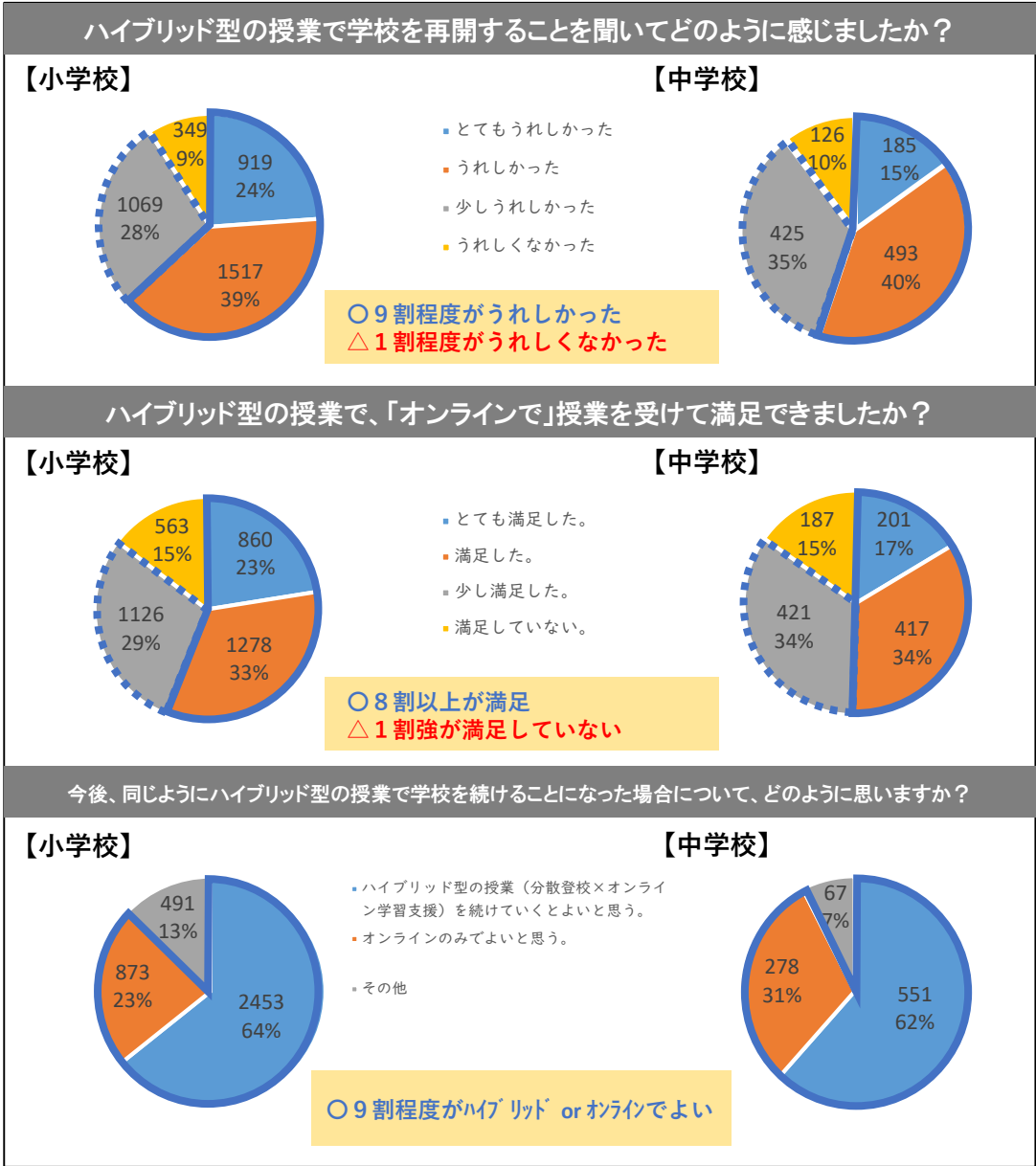
活用シーン

- Zoomでつないでの長良西小学校と鳥羽小学校の交流。
- 海洋ごみ問題について、長良川中流域の長良西小学校と伊勢湾の最終漂着地点の鳥羽小学校で交流することを通して、海洋ごみ問題についての問題意識を高める。
- 子どもの姿・授業の様子、成果等
- 海洋ごみの問題に直面する現地の学校の子供と話すことで、自分事として捉えることができた。
- 海洋ごみの問題に携わっている方々の話を聞くことで、海洋ごみの問題について、自分たちがどのように関わっていくべきなのかと問題意識を高めることができた。



21

ハイブリッド型授業に対する児童生徒の評価



オンライン授業に対する意見 (抜粋)

気持ち

- マスクしていない友達の姿が見れる。
- 感染リスクを避けながら授業が見られる。
- コロナで大変な時期だからもう学校に行って授業が出来ないと思っていたけど、家で授業に参加出来た。
- 画面越しでしか友達に会えないからすごく悲しい。

授業のわかり易さ

- 話もよく聞こえるし、みんなの映像も見える。
- 家でも授業が受けられて、学習の内容がよく分かった。
- 発言する機会が学校に登校するときと比べて少なくなった。

デジタル環境面

- 去年より回線状態がよく、交流などができない以外ほぼ普通の授業とかわらなかった。
- 途中で途切れたり、見れなくなったりしてしまう事があった。

成果

- 各校、各教員1人1人のこれまで培ったノウハウと更なる工夫と努力により、ほぼ全ての学校で学年、教科・単元に応じたハイブリッド型授業の実践により、
- ⇒ 児童生徒の命を守ることと学びの確保を両立できた
 - ⇒ これまで活用頻度の低かった一部教員の底上げが一気に進んだ

課題と改善策

- 一方で一部では、発言機会の減少、途切れるなどの声も散見
- ⇒ 実践事例集の展開・共有
 - ⇒ 途切れた場合の対処策の周知
 - ⇒ 恒常的に通信状況が不安定な箇所について通信事業者と協議し 是正

目指すべき授業像



これまで

授業 + ドリル学習による、基礎的・基本的学習内容の定着

教員が
1人ひとりの異なるつまづきを把握し
克服指導することは困難

課題

- 子どもたちは1人ひとりみんな違う
- | | | |
|--------------------------|----------------|----------------|
| ⇒ つまづきのない（学び直しを要しない）児童生徒 | ⇒ 授業の理解度が高まる | ⇒ 学習内容の定着が進み易い |
| ⇒ つまづきがある（学び直しを要する）児童生徒 | ⇒ 授業の理解度が高まらない | ⇒ 学習内容の定着が進み難い |
| ⇒ 1人ひとりつまづく箇所は異なる | | |

1) 取組み事例

③ 基礎的・基本的な学習内容の定着

デジタルへの期待

- 「子どもたちは1人ひとりみんな違う」ことを前提とし
- 子どもたち1人ひとりが自律的に学び直し・解き直しにより、それぞれのつまずきを克服できる
 - 教員が1人ひとりの習得状況を容易に把握でき、授業設計や指導の判断材料にできる

モデル校
実証中

期待する効果

- 子どもたち1人ひとりに沿った個別最適学習により
- 誰もがそれぞれ満足できる
 - 学習の習慣化
 - クラス全体の基礎的・基本的な学習内容の定着率向上
 - 教員の負担軽減
 - 学習機会格差の解消

想定活用シーン

朝学習／放課後学習	授業での学習内容定着
課題配信	反転学習
臨時休校時における活用	不登校児童生徒への学習支援

今年度の取組み

現ソフトの活用促進

研修の充実、活用事例展開による活用推進

機能改善要望

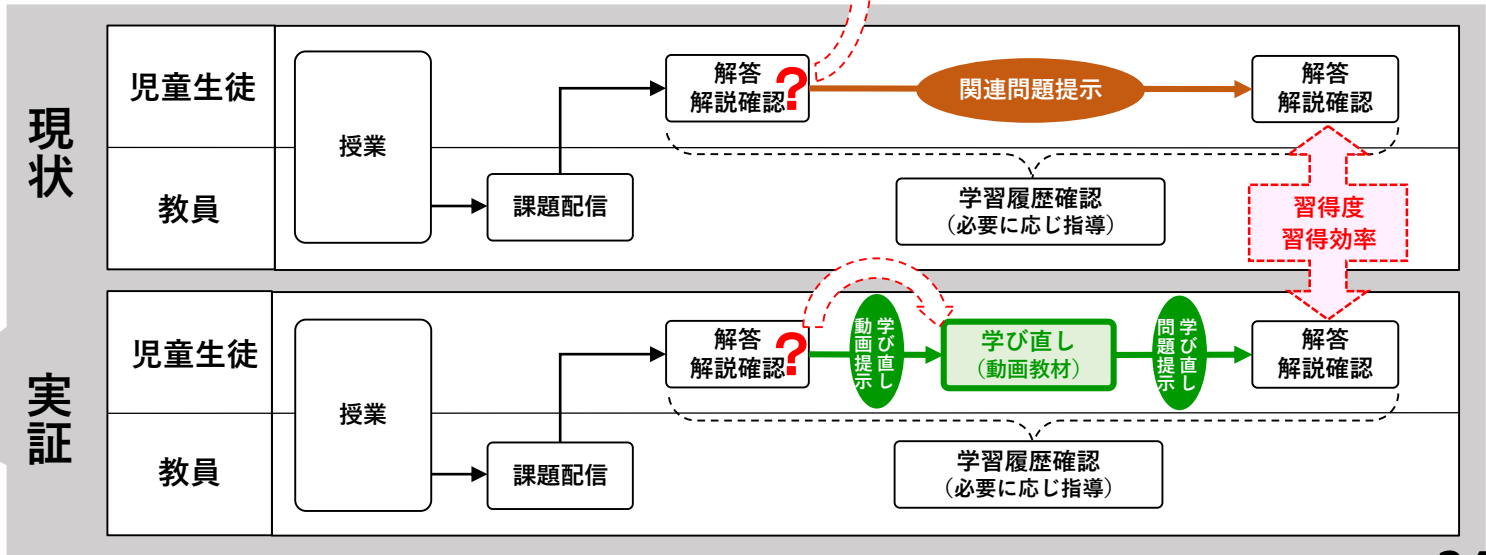
AI分析による
・教員への授業改善、児童生徒への個別最適な指導に資する情報提供

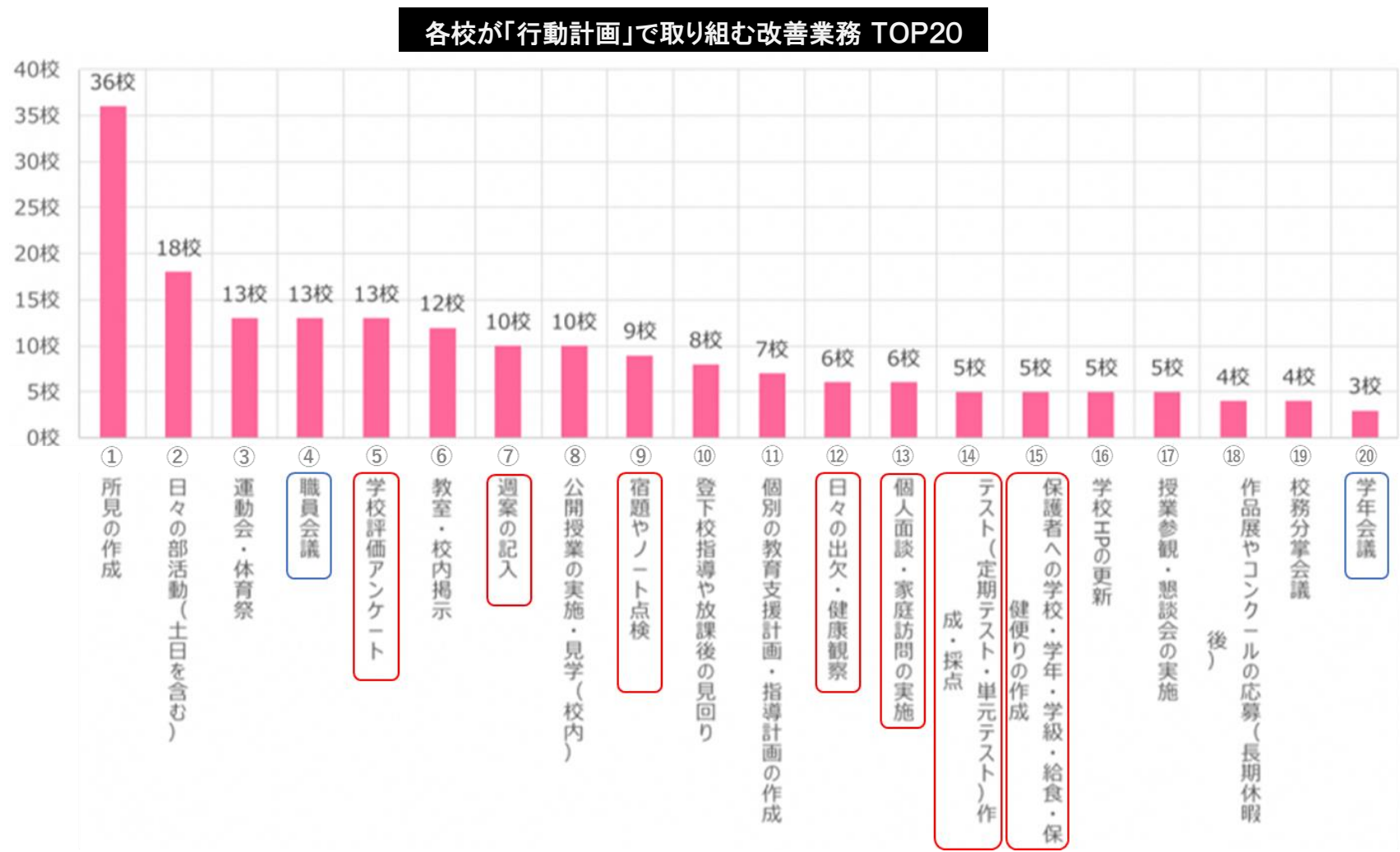
更なる低習得度・習得効率の向上に向けて

新たな取組み

実証検証（2校）

・児童生徒が学び直し（つまずきの克服）可能な動画教材を活用した課題配信～理解度確認～学び直し～理解度確認の実践





○ 各校でタブレットを活用した会議や研修、情報共有等のオンライン化・ペーパーレス化などによる改善の取組みが始まっている

△ 全学校共通の課題については、学校単体での取り組みだけでなく市教委として全市的に解決を図るデジタル施策の推進が必要

1) 取り組み事例

④ 働き方改革（オンライン化・ペーパーレス化）

【改善業務】

④ 職員会議

⑤ 保護者への各種お便り

②⑩ 学年会議

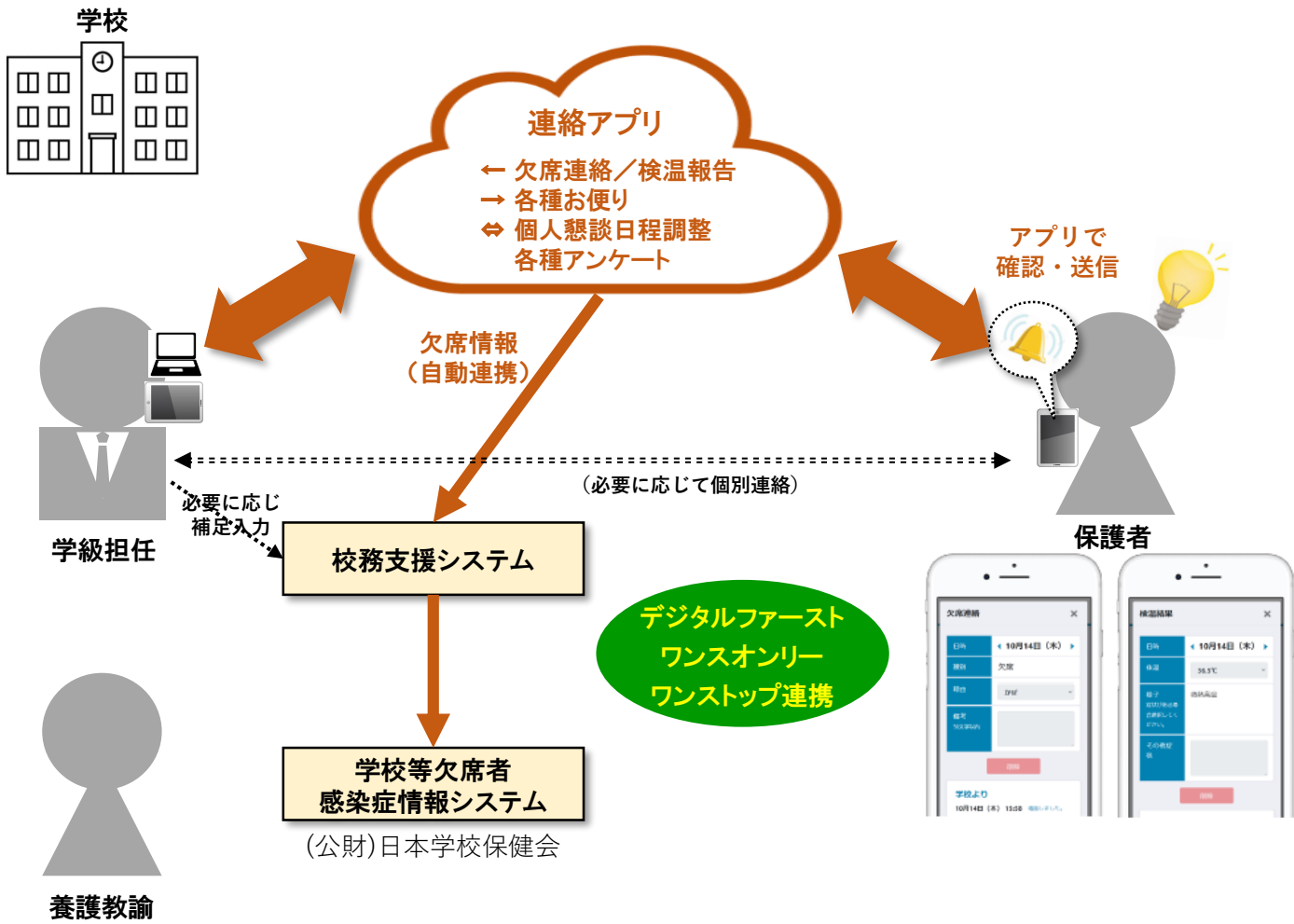
学校における取り組み

事務等			対応手段	今後
会議		職員会議 学年会 教科部会 指導部会	タブレット端末、コミュニケーションツールの活用	継続実施
文書等配布	児童生徒向け	各種お知らせ 各種アンケート		
	保護者・地域向け	学校だより 学級通信 学年通信 その他案内	学校と保護者・地域間の連携アプリの活用	令和3年度：実証 令和4年度：保護者と 令和5年度：地域と
授業 家庭学習		授業での素材・確認問題配布 家庭学習用のプリント配布	タブレット端末・大型掲示装置・ コミュニケーションツール・ デジタル教科書・授業支援ソフト・学習支援ソフトの活用	授業改革の取り組みの中で 更なる推進

1) 取組み事例 ④ 働き方改革（学校と保護者間の連絡の効率化と利便性向上）

モデル校
実証中

- 【改善業務】
- ⑤ 学校評価アンケート
 - ⑫ 日々の出欠・健康観察
 - ⑬ 個人面談・家庭訪問の実施
 - ⑮ 保護者への便り作成



教員

- 負担軽減
- ・ 電話対応
 - ・ 紙の印刷・配布
 - ・ 欠席情報のシステム入力
 - ・ アンケート等の集計など

働き方改革

【参考】実証校

- 毎朝の電話がほとんどなくなった
- 養護教諭 75分/日の削減
- 保護者満足度 8割以上

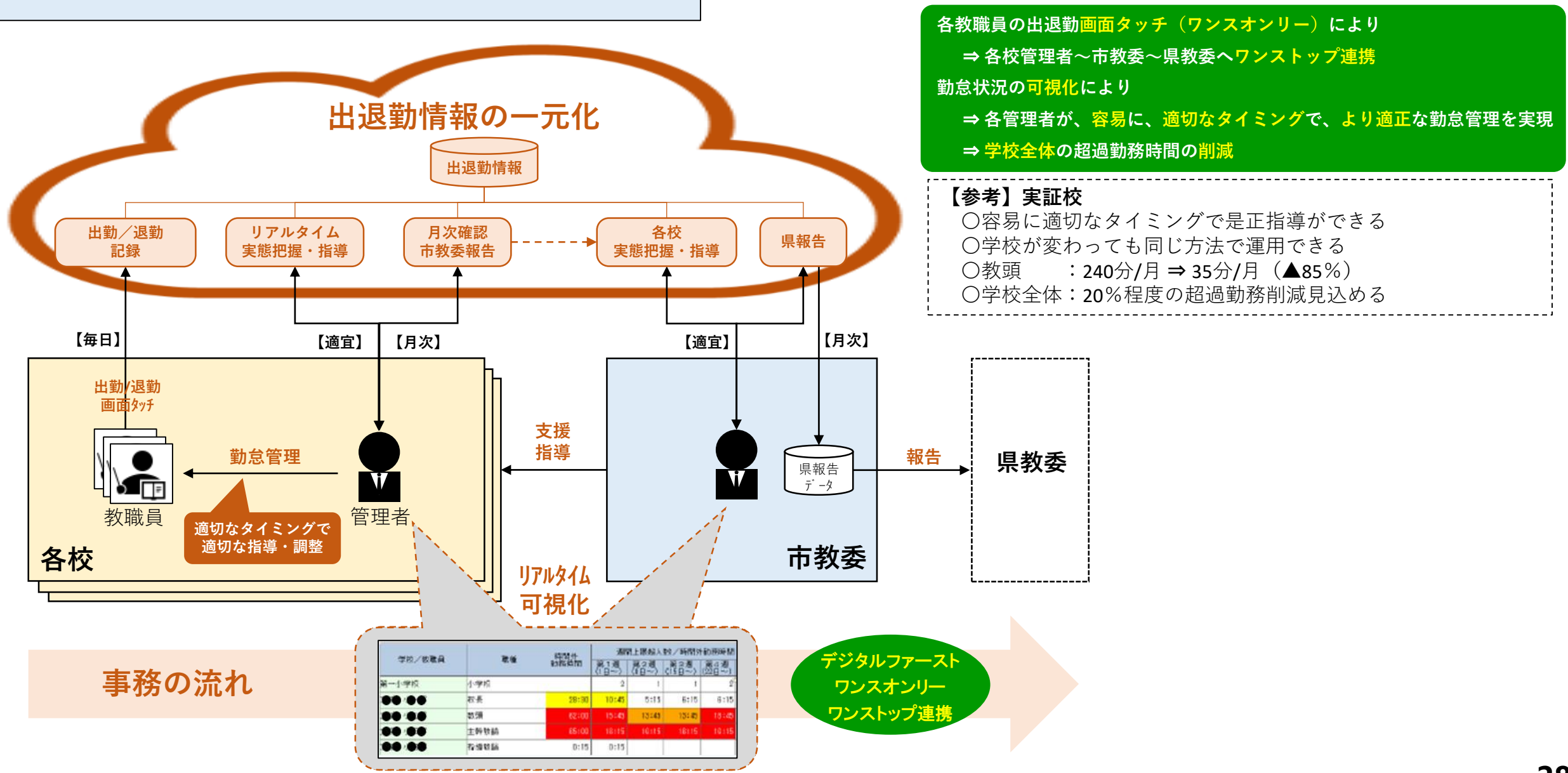
保護者

- 大切なお知らせの確実な把握
- 利便性向上
- ・ いつでも
 - ・ どこにいても
 - ・ 過去の連絡確認も容易

児童生徒

- 配達役から解放
- 渡し忘れ無し
- 感染症リスク軽減

【改善業務】 教職員の勤怠管理（管理者と組織全体）



1) 取組み事例 ⑤ ICTを活用した『子どもの健康』サポート

背景

本市方針

各種動向

岐阜市教育大綱 【基本方針】

学校・家庭・地域の誰もが生命の尊厳を理解し、
互いに心を開く対話を重ね、
一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合う教育を推進する。

岐阜市教育振興基本計画 【基本的方向性1】－【目標1】

生命の尊厳への理解を深める教育の推進

いじめ認知件数の増加

教員の多忙

いじめの把握がし難い状況

(株)文溪堂との連携協定

今まで見えなかった 子どもの「日々のこころの様子」を 可視化 し
教員の経験に依存することなく、教員間で、素早く・簡単・安全に確認・共有 できるしくみの共同実証

スケジュール

令和3年度

連携協定・要件定義・設計

令和4年度

システム開発・実証検証

イメージ（タブレットで）

児童生徒が
今日の様子を選択

スマート連絡帳

Q1.今日の体調は？

☐異常なし ☐吐き気・嘔吐
☐頭痛 ☐下痢・腹痛 ☐怪我
☐風邪症状 ☐その他

Q2.今日の気分は？

☐大変悪い ☐悪い ☐普通 ☐良い ☐大変良い

SOS

教員が
今日のクラスの状態を確認

こころ

	大変悪い	悪い	普通	良い	大変良い
朝の会	4	1	10	5	2
帰りの会	4	2	9	4	3
欠席	1	2	0	0	0
遅刻	1	2	0	0	0
早退	1	2	0	0	0
忘れ物	1	2	0	0	0
風邪症状	1	2	0	0	0
その他	1	2	0	0	0

※席次表については複数レイアウトも検討

席次表

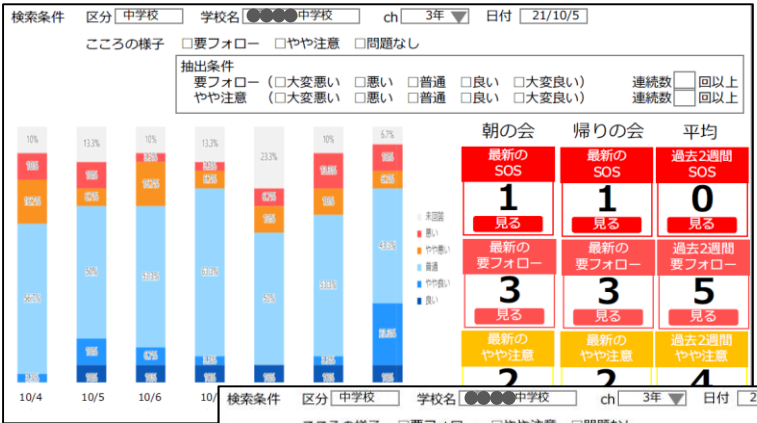
SOS

遅頭

欠遅腹

イメージ（校務用パソコンで）

クラス全体の変化の様子



児童生徒の変化の様子

検索条件 区分 中学校 学校名 中学校 ch 3年 日付 21/10/8

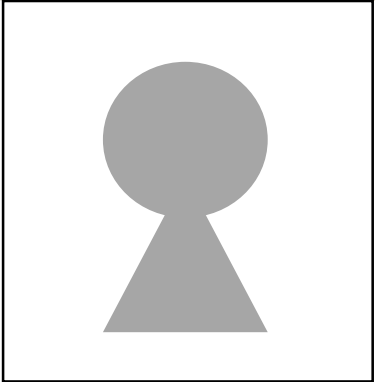
こころの様子 ☐要フォロー ☐やや注意 ☐問題なし

抽出条件 要フォロー (□大変悪い □悪い □普通 □良い □大変良い) 連続数 回以上
やや注意 (□大変悪い □悪い □普通 □良い □大変良い) 連続数 回以上

朝の会	名	前	平均スコア	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10
最新のSOS 1 見る	岐阜 太郎	3-1-1	2.2	大変良い	大変悪い	大変悪い	普通	大変悪い		
最新の要フォロー 3 見る	岐阜 花子	3-2-6	1.8	良い	大変悪い	大変悪い	悪い	大変悪い		
最新のやや注意 2 見る	岐阜 次郎	3-3-9	1.8	悪い	大変悪い	普通	悪い	大変悪い		

学校がチームとなって
子どもの心や体の状況・小さな変化・心のSOSをキャッチし、
声掛けなどきめ細やかなサポートの実現を図る

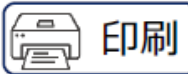
校務情報と組み合わせた「児童生徒のカルテ」イメージ



〇〇小学校
3年1組20番
岐阜 花子

◀ 9月 ▶

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		



こころとからだの様子																
		10月														
		1金	2土	3日	4月	5火	6水	7木	8金	9土	10日	11月	12火	13水	14木	
こころの様子	朝		-	-				-		-	-					
	帰		-	-				-		-	-					
出欠席状況		遅	-	-	遅	遅	遅	欠	-	-	-	遅	遅	欠		
健康観察状況		頭	-	-	頭	腹	頭	-	-	-	-	頭	腹	-		

出欠席状況・保健室来室記録																
		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
出欠席状況	欠席		-	-	-	2	-	5	2						9	
	遅刻		-	-	-	4	-	6	3						13	
	早退		-	-	-	1	-	4	-						5	
保健室来室	病気		-	-	-	1	-	-	-							
	けが		-	-	-	-	-	-	-							
	その他		-	-	-	-	-	5	3							

えぴメモ	
日付	内容
10/1	保健室では泣いてることが多かった

定期テスト								
前期 期末	国語	社会	数学	理科	英語	合計	保体	技家
得点	55	81	48	61	50	295	49	70

エビデンスに
基づき

よりきめ細やかな
個に応じた指導

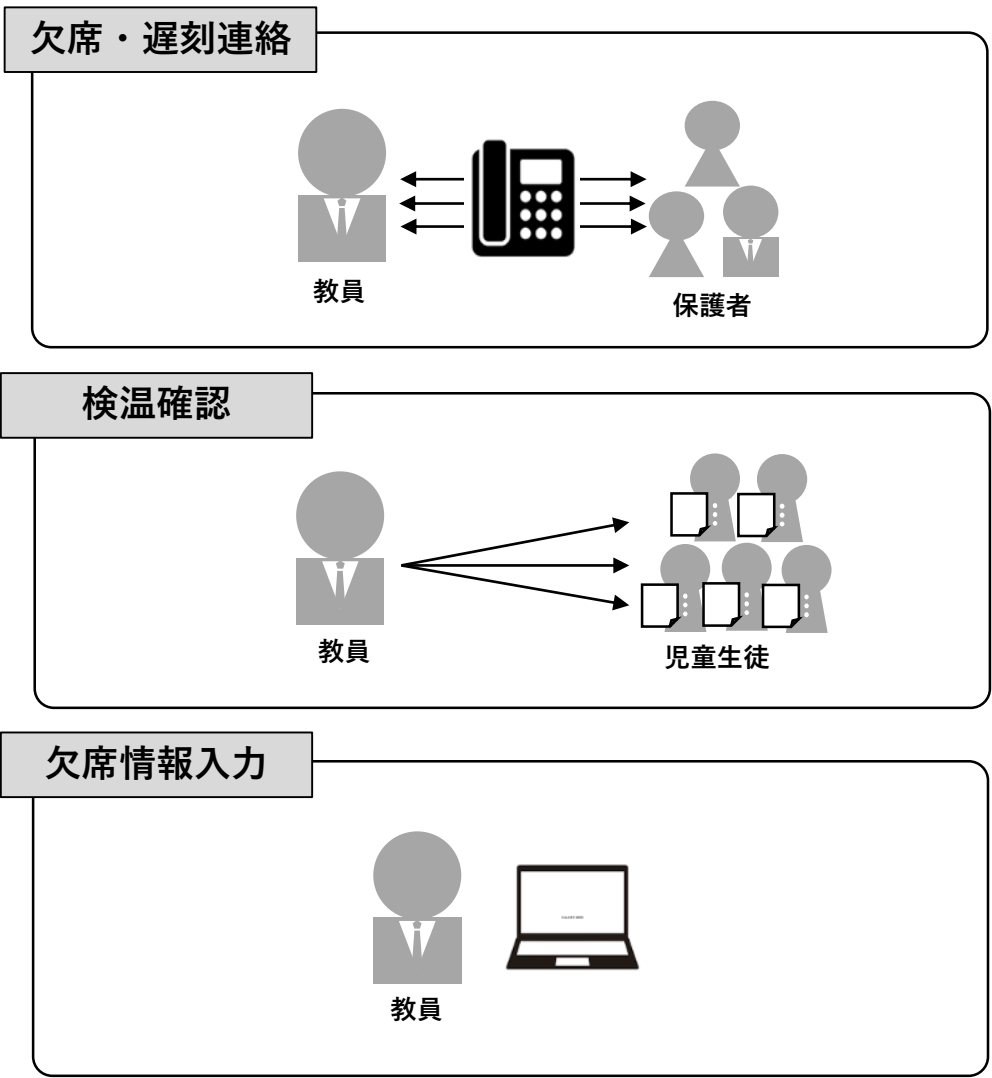
児童生徒自身が
自分の生活振り返り

保護者への
より納得性・具体性
のある説明

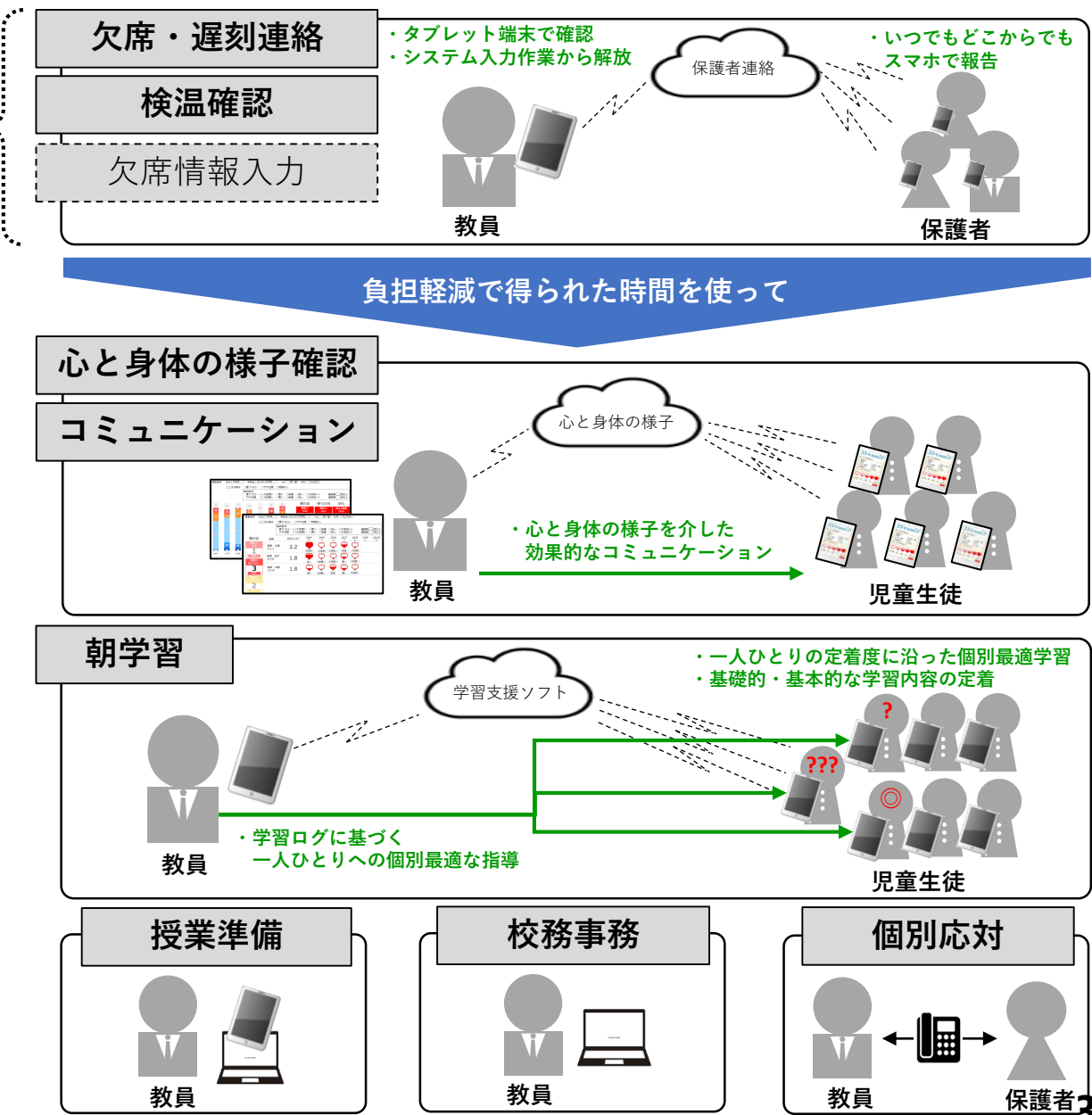
2) デジタルを活用したこれからの学校のように

① 朝のように

これまでの姿

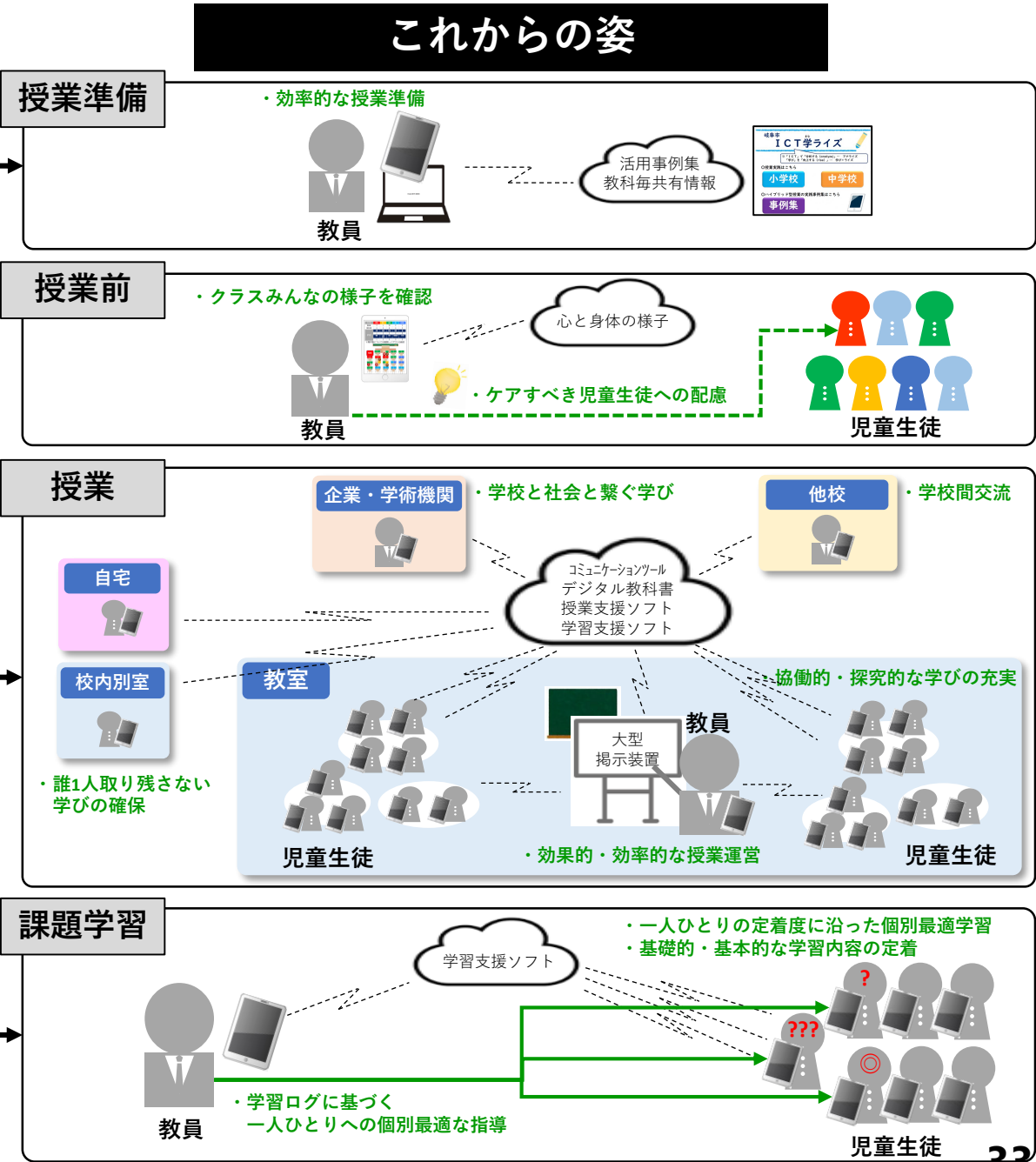
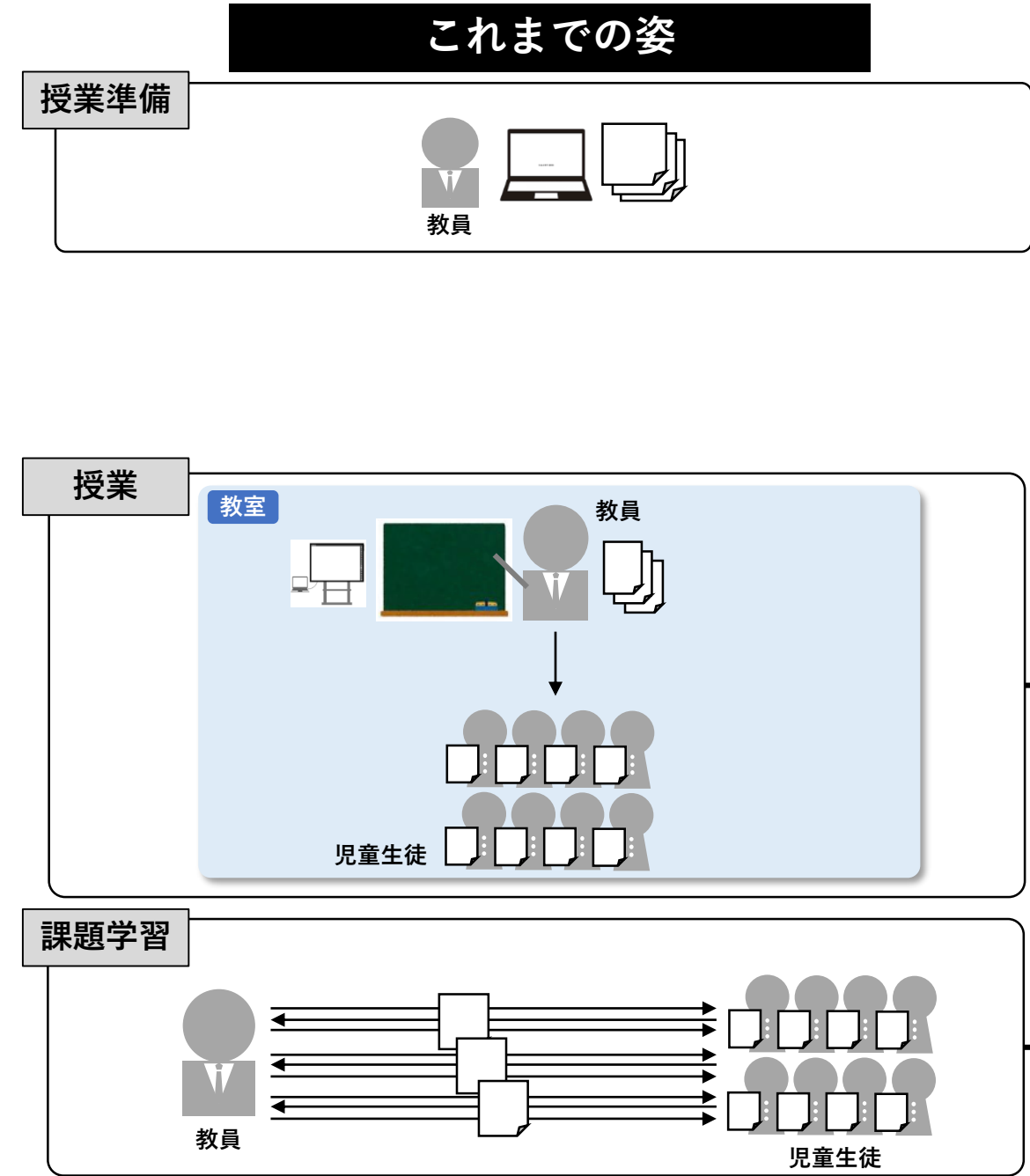


これからの姿



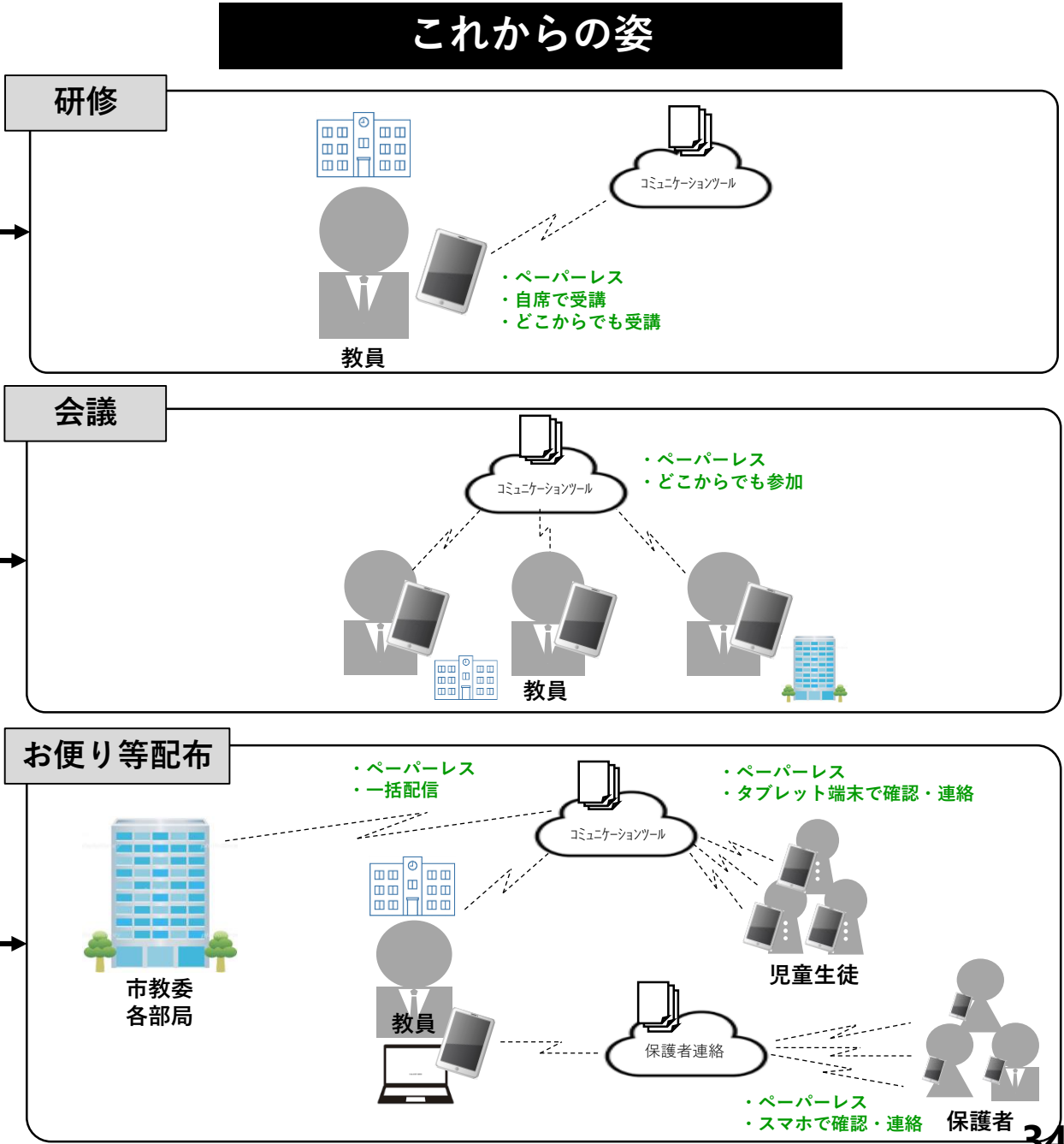
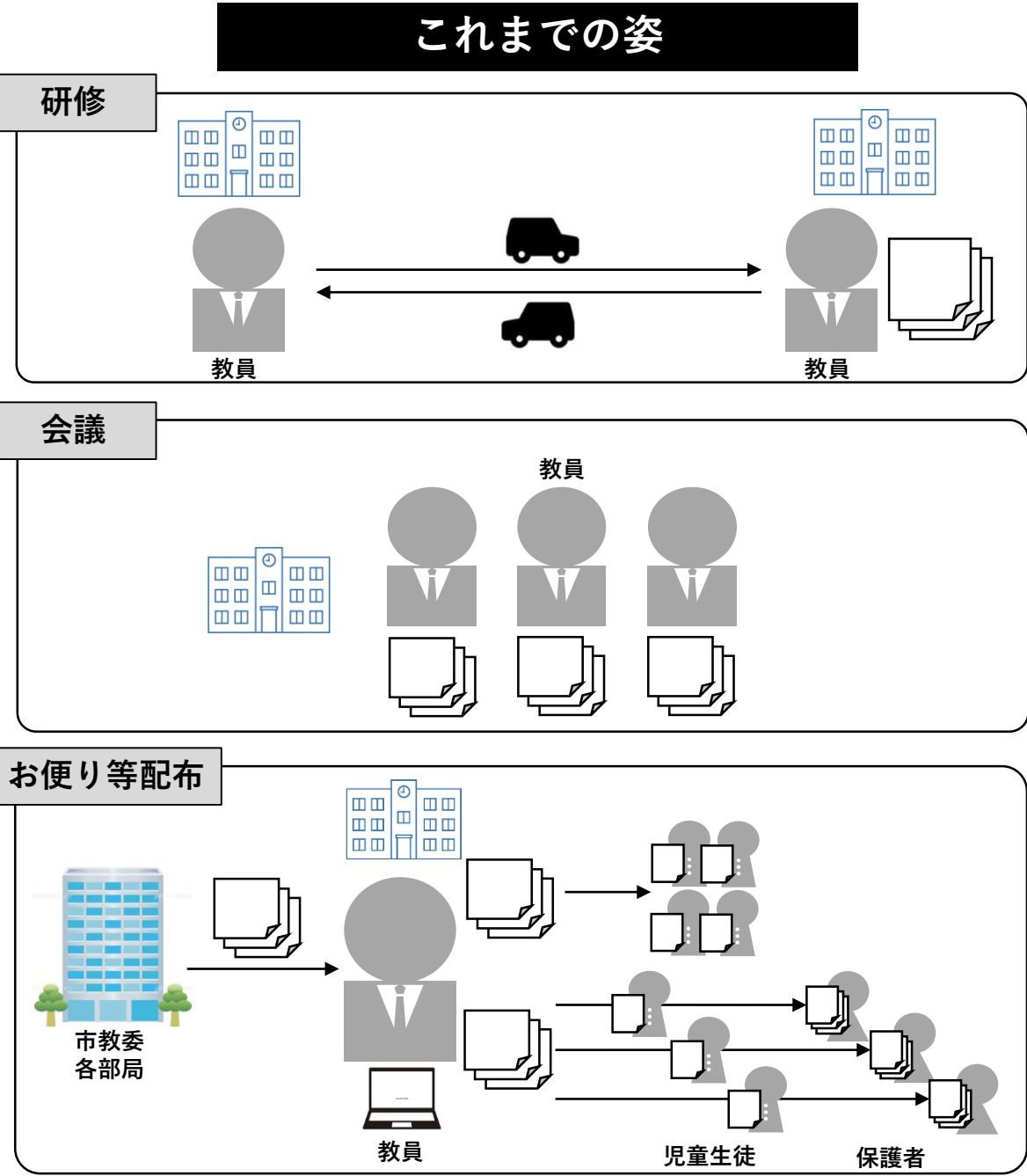
2) デジタルを活用したこれからの学校のように

② 授業のように

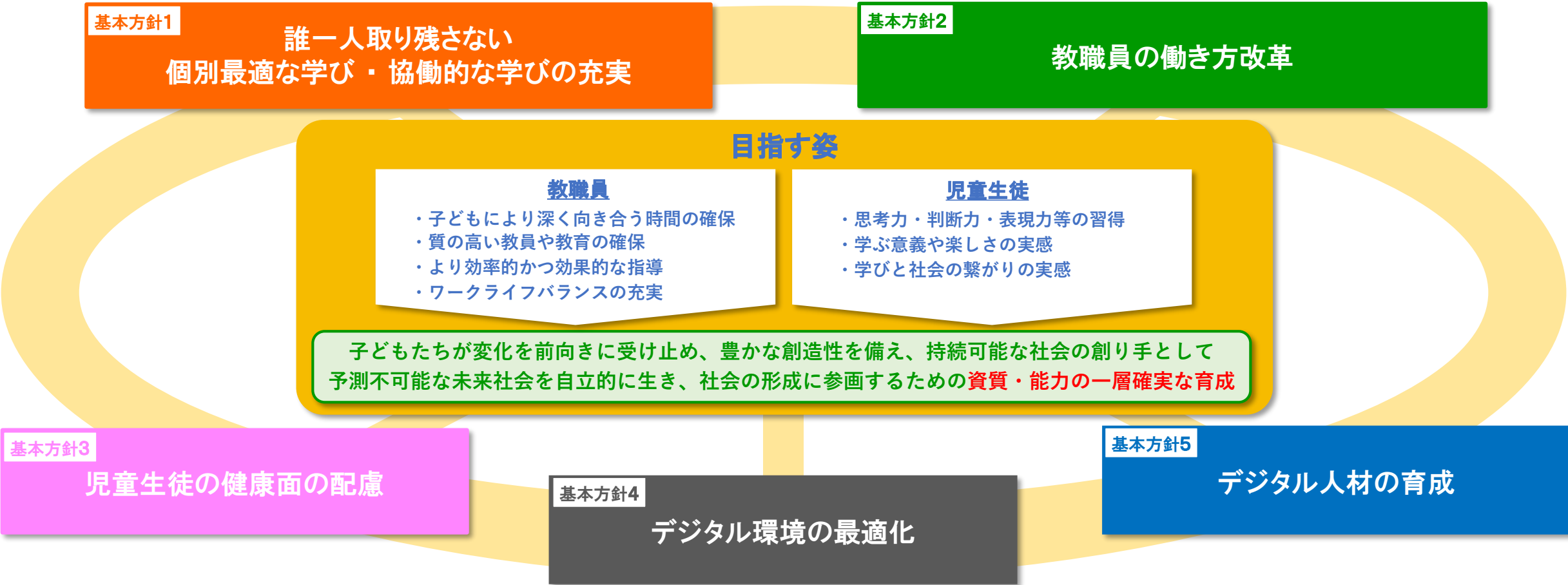


3) デジタルを活用したこれからの学校のように

③ 校務事務のように



「デジタル・シティズンシップ教育」と「教育DX」の概念に基づく
岐阜市版GIGAスクール の更なる推進



オール岐阜市学校体制で計画的に推進

3. 教育DX ～これまでの教育・これからの教育～

岐阜市の教育DX これまでの教育 これからの教育

則武小学校
校長 松岡 猛

実践1 児童会G5(Group of 5)サミット

県内の5つの小学校児童会がオンラインで会議
(岐阜市・各務原市・山県市・羽島市・白川村の小学校合同児童会)
コロナ禍の児童会活動について、年間3回交流した。



コロナ禍の中、
私たちの学校は
〇〇に取り組ん
でいます。



コロナ禍でも、そ
れぞれの学校が
工夫して取り組
みを始めている
ね。



実践2 則武小と白川郷学園で 創り上げる修学旅行

白川郷ジュニア観光大使の白川郷学園6年生に協力依頼！

①白川郷学園とのOn-lineで計画立案



白川郷の秘密を知りたいけど、どんなコースがいいかな？

②修学旅行当日 白川郷到着！

みんなで考えたコースをこれから回りましょう！白川郷の秘密、いっぱい伝えます。



→白川郷学園の児童による
白川郷案内

実践3 オンライン社会見学

韓国のソウル日本人学校との交流

～世界の文化をオンタイムで学ぶ～



実践4 ハイブリッド運動会



- ・1,3,6年→午前：自宅でオンライン観戦 午後：学校で参加
- ・2,4,5年→午前：学校で参加 午後：自宅でオンライン観戦





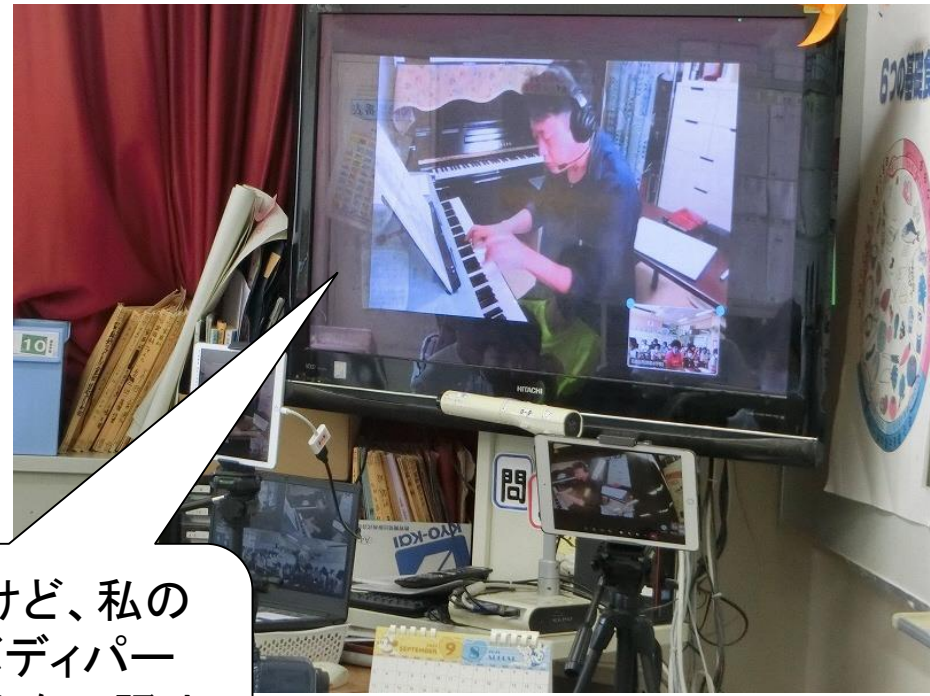
自宅で運動会の応援 をする応援団長！

コロナで無観客開催
だったため、保護者も
オンラインにて観戦し
ていただきました。

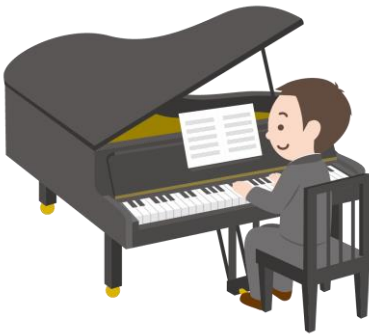


実践5 オンライン出前講座

プロピアニスト・作曲家の小林真人さんによる贅沢な音楽の授業



歌は歌えないけど、私の
ピアノ演奏でボディパー
カッションをみんなで踊り
ましょう！



実践6 絵画贈呈式を各教室に配信

画家 高橋勝さんから絵画「金華山三十六景」を贈呈していただきました。

贈呈式をオンラインで全校配信！

～全校児童で感謝の気持ちを伝えました～



実践7 トウモロコシ畑から生中継

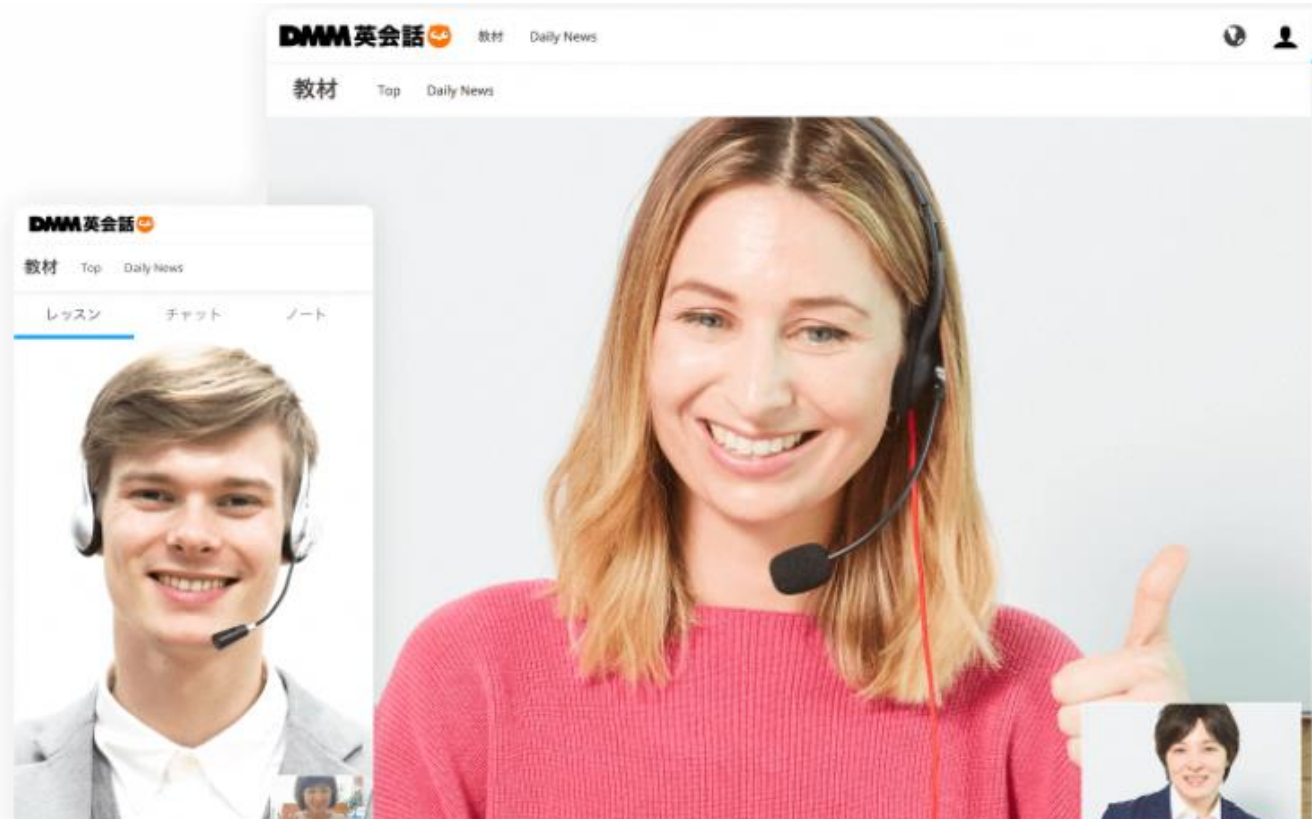
本校の給食に使用している則武地区の食材について、収穫する畑から生中継で学ぶ授業を展開！



実践8 マンツーマンレッスン英会話

経済産業省「未来の教室」事業に参加

DMM英会話で外国人とマンツーマンレッスンを受講
英会話を楽しむ子どもたちが急増！（毎日25分間）



実践9 異年齢学習(イエナプラン教育)

「学校の不思議を探そう」



学校の中にある不思議「あれ?」「なぜ?」を写真で撮って探究学習



実践10 ハイブリッド授業「学び合い」

分散登校＋オンライン学習

学校と家庭、離れていてもオンラインで「学び合い」を実現！
ブレイクアウトルームで、ソーシャルディスタンスを保ちながら
グループで学び合い、考えを深めました。



タブレットで仲間と「学び合い」をして、楽しいな！いろいろな意見が聞けて勉強になります！



これまでの学び



＜教師主導型一斉授業＞

- ①決められた場所・学年のもとで
- ②みんな同じ目標で
- ③みんな同じ内容で
- ④みんな同じペースで
- ⑤いっせいに
- ⑥言われたとおり学ぶ



1970年 則武小学校の授業

これまでの学び



- 教師主導の進行のため、子どもの主体性や協働性が育ちにくい。
- 教師のペースで学習が進められる児童が高い評価
- 教師のペースで学習が進められない児童について・・・

「教師の教え方」や「児童の努力」に問題ありとされる

「同学年であれば、子どもの能力は一律である」

これからの学び

「令和の日本型学校教育」（R3.1.26 中教審答申）

「岐阜市教育大綱」（R2.12.24改定）

子どもたちの成長は一人ひとり違う

①個別最適な学び

②協働的な学び



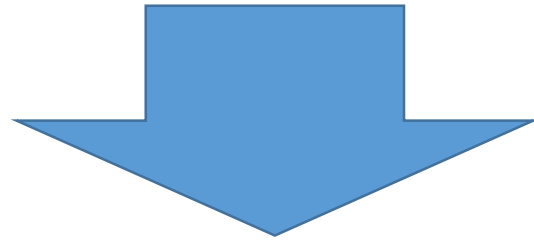
これからの学び

- ①居場所や学年や時間の制約を必ずしも受けず
- ②自分の個人目標と選択をもとに
- ③一人ひとり違う内容で
- ④一人ひとりが違うペースで
- ⑤自分で、時に協力して
- ⑥自分から学ぶ



教師の役割

教え上手 (Teacher)



学ばせ上手 (Coach)

+ 教え上手 (Teacher)



実践する上で課題が・・・



- 子どもが学び直しや学び進める教材が読んで理解する教科書しかない。読んで理解できないと頼るものがない。
- つまずきを克服する教材として該当学年の教科書しかない。（つまずきは他学年も）
- 誤答であったとき、どこを学び直せばよいか、子どもが判断することが難しい。
- 子どもの学習進度が様々なため、一人ひとりの学習状況の把握に時間がかかる。（教師の支援が遅れる）



Edtech教材を導入で



- 「読む」で理解 → 「読む」＋「見る」「聞く」でも理解
- 同学年の教科書のみ → 他学年の授業コンテンツで学び直し
- 誤答から学び直す機能 → 素早く効率的に弱点を克服
- 学習ログ（進度・定着度）の把握
 - 児童：自ら学習の調整
 - 教師：素早い支援



これからの教育「未来の教室」

反転学習

授業教材で予習



わからないところを学び合い



支援が必要な子どもに
時間をかけて指導

先生は…

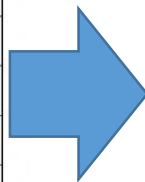


子どもの主体的・協働的な学び「Active・Learning」

単元内自由進度学習

子どもが自分で
学習計画を立てる

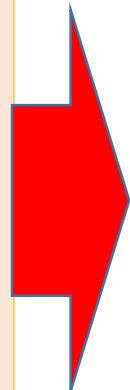
学習計画表			
日時	教科	学習すること	時間



一人ひとりのペースで学ぶ



わからないところを学び合い



一人ひとりに
確実な学力保証

一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合う・・・

「デジタル・シティズンシップ教育」と「教育DX」で

一人ひとりとは違うことを認めながら大切な存在として展開できる教育へ

- 昨年度に続き、**教育大綱の実現**に向けた協議を展開し、**教育立市の更なる深化**を目指す

岐阜市教育大綱が掲げる**基本理念**及び**目指す姿の実現**に向けて、

昨年度までの**協議の軌跡**、具現化した**施策**との**連環**を意識しつつ、

市長と教育委員会による協議・調整のもと、**更なる教育施策の検討・推進**を図る

1. 次年度に取り組むべき施策を具体化し、**立案**する
2. 中長期的に取り組む施策の方向性・見通しを共有する



「こどもファースト」の理念に基づく**教育立市の更なる深化**

(参考) 会議日程

- 今年度、以下のとおり**計6回**の会議を開催予定、**施策協議**及び大綱に定める**成果検証**を行う

※ 時間は基本、13:30～15:30を予定

回	日程	場 所	協議事項	招聘者による話題提供(予定)
第1回	7/20 (火)	庁舎大会議室	協議(学校・教職員) 各学校の共通課題の解決 (現状分析・課題認識)	・国の学校教職員の働き方改革の全体像 ・今後の部活動のあり方の方向性を提示
第2回	8/30 (月)	庁舎大会議室	協議(学校・教職員) 各学校の共通課題の解決 (施策の方向性・概要検討)	・ICTを活用した業務改革の更なる視点 ・部活動の地域移行の先進事例紹介
第3回	10/13 (水)	庁舎大会議室	協議(子ども) 子どもの学びの構造転換	・探究的な学びを支える大人の問い・関わり方 ・これからの学びに応える、学校のかたち
第4回	11/16 (火)	メディアコスモス かんがえるスタジオ	協議(家庭・地域) 地域が支える、子どもの学びと育ち	・地域の大人が魅せる、育むシビックプライド ・サードプレイスの更なる役割・可能性の広がり
第5回	12/24 (金)	庁舎第1・第2 研修室	協議(DX) GIGAスクールの更なる推進	・GIGAスクールの実現をより一層進める デジタル・シティズンシップと教育DX
第6回	1/6 (木)	庁舎大会議室	大綱実現 に向けた 施策推進状況 年間総括 (今年度協議の振り返り)	・「生き方の探究学習」カリキュラムの更なる 発展・充実に繋がる、示唆・助言

(参考) 会議ロードマップ

●協議の成果として、次年度の施策を具現化 及び 施策の中長期的な方向性・見通し を得る

